

## 医療安全通信 第64号-1

【薬局部 医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

### リクシアナと他の抗凝固剤との切り替え方法について（1）

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」2019年 No. 5には『ワルファリンからリクシアナへの切り替え』についての事例が掲載されています。

[http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing\\_case\\_2019\\_05.pdf](http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2019_05.pdf)

#### ◆ 事例の内容

ワルファリン錠1mg 4錠が中止となり、リクシアナOD錠60mg 1錠が処方された。リクシアナOD錠60mgの添付文書には、「ワルファリンから本剤に切り替える場合は、ワルファリンの投与を中止した後、PT-INR等、血液凝固能検査を実施し、治療域の下限以下になったことを確認した後、可及的速やかに本剤の投与を開始すること。」と記載があるが、休業期間が設けられていなかったため、医師に疑義照会した。その結果、処方削除となり、7日後に再検討することになった。7日後、PT-INRが3.88から0.98になったことを確認し、リクシアナOD錠60mgが投与開始となった。

#### ◆ 背景・要因

抗凝固薬が処方されたため、注意事項が気になり添付文書を確認した。

#### ◆ 薬局が考えた改善策

ハイリスク薬に関して、日頃から知識をつけて備えておく。

#### ◆ その他の情報

ワルファリン錠0.5mg/1mg/5mgのインタビューフォーム（一部抜粋）

VI. 薬効薬理に関する項目

2. 薬理作用

(3) 作用発現時間・持続時間

〈参考〉

抗凝固効果は投与後12～24時間目に発現し、十分な効果は36～48時間後に得られる。その効果はその後48～72時間持続する。

#### ◆ 事例のポイント

○ワルファリン錠から他の抗凝固薬へ変更する際は、ワルファリン錠の効果が持続していることを考慮し、PT-INR等の血液凝固能検査を実施して治療域の下限以下になったことを確認してから投与を開始する必要がある。

○近年、処方箋に検査値を記載する取り組みが進められているが、薬局の薬剤師が患者の検査値を把握したうえで処方監査を行うことにより、適切な投与量の確認や副作用の回避が可能となる。検査値についても十分な知識を身に付けることが望ましい。

【原文のまま抜粋】

リクシアナ（一般名：エドキサバントシル酸塩水和物）は、血管内で血液凝固に関与するFXa（活性化血液凝固第X因子）を選択的かつ可逆的に直接阻害する1日1回投与の経口抗凝固剤として「非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制」「静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制」「下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制」の3つの効能・効果を有し、血栓塞栓症の発症抑制や治療に使用されています。

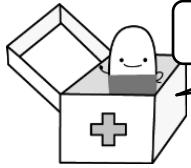
臨床上的理由によりリクシアナと他の抗凝固剤との切り替えを行う場合には、**切り替えに伴う出血及び血栓塞栓症の発現を回避するため**、患者の状態を十分に観察しながら適切な方法で行う必要があります。抗凝固剤の処方変更の際には、添付文書等に記載されている切り替え方法を確認し、しっかりと処方監査を行いましょう。次頁にリクシアナと他の抗凝固剤との切り替え方法についての図を示しますが、他の抗凝固剤についても、切り替え時の注意点を日常より整理しておきましょう。

#### ◀ 参考・引用資料 ▶

- ・リクシアナ錠15mg・30mg・60mg/OD錠15mg・30mg・60mg 医薬品インタビューフォーム
- ・RMP資料（医療関係者向け）リクシアナの適正使用について
- ・第一三共 Medical Library リクシアナのよくある質問（Q&A） 2019年6月17日アクセス
- ・第一三共株式会社 ニュースリリース 抗凝固剤「リクシアナOD錠」発売のお知らせ 2017年11月29日

旭川薬剤師会公式サイトに医療安全通信のバックナンバー、掲載資料、リンク先を掲載しています。





医療安全通信 第64号-2

【薬局部 医療安全委員会】

## リクシアナと他の抗凝固剤との切り替え方法について（2）

